

病害虫発生予報 第7号（10月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

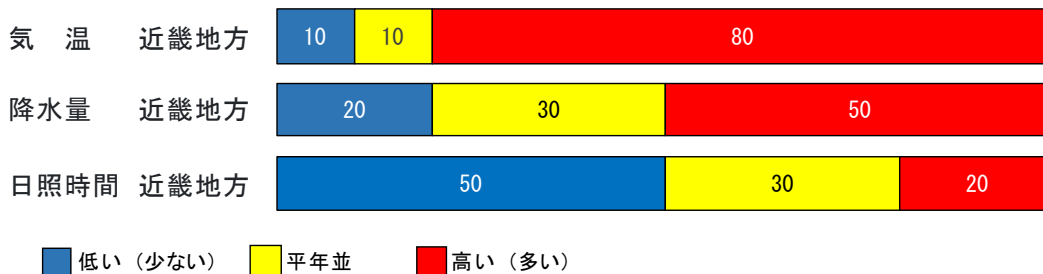
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	シロイチモジヨトウ	やや多
				ハスモンヨトウ	やや多
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並	カンキツ	オオタバコガ	並
				果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 やや多
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 やや少 並 並 少
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並 やや多 並 並		果樹全般	カメムシ類

気象予報

近畿地方 1か月予報（09/21～10/20）

2024年09月19日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/21～10/20	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 09/21～09/27	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 09/28～10/04	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/05～10/18	気温	3～4週目は、高い確率70%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、発病株率0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。
- ④ 令和6年度病害虫発生予察注意報第6号（令和6年8月9日発表）を参照する。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市6頭（平年14.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のは場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、生息葉率0.4%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率22%、生息葉率3.2%）であった。

- ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は74頭（平年129.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。
② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は22%（平年14%）、生息葉率4.1%（平年2.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は11%（平年9%）、生息葉率2.0%（平年1.6%）であった。

- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬のハダニ類の発生ほ場率は59%（平年24%）、生息株率は14.1%（平年8.5%）であった。

- ③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は33%（平年49%）、生息葉率12.9%（平年12.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は11%（平成0%）、生息葉率は0.4%（平成0%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。
 - ② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は59%（平成28%）、生息株率は12.9%（平成7.6%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市97頭（平成60.4頭）、御坊市35頭（平成64.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は68%（平成20%）、生息葉率は1.9%（平成0.8%）であった。
 - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は47%（平成23%）、生息株率は8.2%（平成3.7%）であった。
 - ③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市314頭（平成555頭）、和歌山市2,279頭（平成1,223頭）、御坊市1,407頭（平成925頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率11%、生息株率2.1%）であった。
 - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市29頭（平成22.4頭）、御坊市6頭（平成3.0頭）、印南町0頭（平成2.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

Ⅱ．果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
 - ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
 - ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、無防除区29頭（平成0.8頭）、慣行防除区38頭（平成0頭）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は31%（平成30%）、発病果率は1.0%（平成1.4%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病枝や発病果実は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、見つけ次第除去して土中に埋める。
 - ② 発病果実がみられるほ場や降雨が続くと予想される場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
 - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多に注意するとともに、強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
 - ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は56%（平成62%）、発病葉率は3.1%（平成9.0%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は0%（平成9%）、発病葉率は0%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は13%（平成31%）、発病葉率は2.1%（平成2.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は13%（平成61%）、寄生果率は0.3%（平成6.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のカキ「富有」における9月中旬の果実の被害ほ場率は94%（平成41%）、被害果率は28.9%（平成6.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,219頭（平成1,197頭）、ツヤアオカメムシが210頭（平成375頭）、クサギカメムシが108頭（平成134頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,057頭（平成556頭）、ツヤアオカメムシが126頭（同343頭）、クサギカメムシが73頭（同37頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,497頭（平成5,090頭）、ツヤアオカメムシが434頭（平成3,914頭）、クサギカメムシが61頭（平成153頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ⑥ 令和6年度病虫害発生予察注意報第4号（令和6年7月12日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780